

失敗のすすめ

校長 加納 直樹

新学期がスタートして3週間が経ちました。新しい学年に進級した子供たちは、大きな希望と期待を胸に抱き、毎日目を輝かせて登校しています。それでも新しいことが始まる時は、誰しも心のどこかに少しの不安はあるものです。

とくに、4月に入学した1年生たちにとっての小学校生活は、きっと初めての経験ばかりで、不安もあるでしょうし、たくさん失敗や間違いをしますし、保護者の方からすると心配もあるかと思えます。

保育園・幼稚園と小学校との違いは、保育園・幼稚園では、ゆったりとした時間の中で「遊ぶ」ことが生活の中心でした。ところが小学校に入ると、規則正しい生活習慣のもとで「学ぶ」ことが重視されるようになります。子供にとってこの変化はとても大きいはずですが、大きな変化の例を挙げると、その一つは「自分で小学校へ行く」ことです。今までのように保護者と一緒ではありません。決まった登校時間に間に合うように起床し、食事をとり、学校へ行く準備をして家を出なければなりません。また、小学校では1コマ45分の授業が組まれており、その時間はしっかりと席に座って先生の話の聞かなければなりません。そして、次の授業までの5分間の休み時間で、お手洗いをすませなければなりません。

大人から見れば当たり前なことでも、初めて経験する1年生にとっては、かなり大きな変化と考えるよいと思います。そのため子供が「失敗すること」は当たり前のことです。ですから、失敗することをマイナスと捉えず、失敗を経験して子供は成長すると考えたほうがよいのです。今の社会は「子供が失敗しにくい環境」です。子供に失敗して辛い思いをさせたくない、失敗で無駄な時間を使いたくないと考える保護者の方が、先回りして失敗を回避することが増えているのではないかと思います。

私は「失敗経験」が子供の成長には欠かせないと考えています。学校では成功も失敗も経験できるような授業の工夫をしています。例えば、生活科や算数の授業も、45分間ずっと席に座っている授業は減り、校庭で植物の観察をしたり、近くのお店屋さんまで行って買い物をしたりするなど、「日常生活」に結び付けた体験を通して学ぶ機会を増やしています。体験活動を通して、成功や失敗などを多く経験できるようにというねらいがあるのです。また、体育学習発表会や学芸会などの行事も、成功・失敗体験を積むために欠かせない機会です。

小学校1年生の場合、まだ一人でできないことがたくさんあります。その際、保護者がどう行動するかが重要です。大昔、私の娘が小学校1年生になった時に約束したことは一つ。「朝起きたら、自分の顔を洗う前に、小鳥の水を取りかえ、餌をあげること。」できないときは、きちんと叱りました。着替えがうまくできなかつたり、出発時間になってもぐずぐずしたりすることはしょっちゅうでしたが、大目に見ました。たくさん注文をつけることより、一つでよいから本人も納得できる「目標」をもって実行する中で、できないことができるようになっていくのではないかと考えたからです。子供は、失敗を「失敗」と意識しない限り、自分自身で改善することはできないように思います。

また、子供自身に夢中になれるものが生まれると、前向きな「失敗」を経験することができると思います。我が息子の場合は、自転車でした。「補助輪なしで自転車に乗れるようになりたい」という大きな目標があると、何度転んでもくじけずにがんばろうとします。そんな時こそ、保護者の出番！ 気休めのほめ言葉ではなく、「あともう少しで乗れるようになる！」という励ましの言葉とともに、「どうしたらうまく乗れるようになるのか」といった具体的なアドバイスが有効です。子供は、真剣にそのアドバイスに耳を傾けるでしょう。たくさん失敗して、ようやく自転車に乗れるようになった時に見せた表情は今でも宝物です。

ぜひ、子供の目標の実現へのステップに付き合ってみてください。子供の失敗経験を通して、子供も保護者も成長できると思います。